

災害時 自分のは自分で

一人一日分の水や食料 企業で備蓄してもらおう 一般団法人「日本非常食」などを入れた箱を家庭や「白い小箱運動」に、「推進機構」(四日市市浮



白い小箱を紹介する古谷代表理事(四日市市浮橋1丁目)

非常食備蓄「白い小箱運動」

橋一丁目、古谷賢治代表理事)が取り組んでいる。災害への備えが目的で、古谷代表理事は「自分のことは自分でやる」と話している。「授業で取り入れてもら

四日市の普及へ意気込み 社団法人

る。古谷代表理事が運動を始めたのは、平成十九年の新潟県中越沖地震がきっかけ。被災地域が孤立して救援物資が届けられない現状を目の当たりにし、備蓄の重要性を再認識したという。箱には、水や非常食、ブドウ糖、防寒シート、ティッシュなどが入っており、重さは約二キロ。有事の際に持ち出せるように、物ほほほ全て自費で調達している。同機構の賛助会員は現在、県内外の十社にとどまっており、費用が課題。古谷代表理事は、自治体主催の防災イベントでブースを出すなど認知度向上に向けた対策を練っている。 昨年は県内で約七千二百個を無料配布したが、古谷代表理事は「無料で

(廣瀬秀平)